

## 令和4年度第2回一関市総合計画審議会 会議録

- 1 会議名 令和4年度第2回一関市総合計画審議会
- 2 開催日時 令和4年11月14日（月） 午後2時から4時まで
- 3 開催場所 一関市役所 大会議室
- 4 出席者
  - (1) 委員 砂金文昭委員、泉賢司委員、伊藤清里委員、大沼佐樹子委員、尾形亜紀子委員、小山亜希子委員、小岩邦弘委員、佐藤柗平委員、佐藤紀夫委員、佐藤弘子委員、東海林訓委員、菅原敏委員、館山壮一委員、千田久美子委員、徳谷喜久子委員、千田好記委員、三浦幹夫委員、吉田正弘委員
  - ※欠席者 阿部新一委員、伊藤拓也委員、大内早智子委員、小野寺千絵委員、齊藤裕実委員、菅原君代委員、千田博委員、廣長千鶴子委員、若山義典委員
  - (2) ファシリテーター いちのせき市民活動センター  
小野寺浩樹センター長、千葉歩主任支援員、佐々木牧恵主任支援員、鈴木純香支援員、村上駿輔支援員、金野勇希支援員
  - (3) 事務局 菅原稔市長公室次長兼政策企画課長、鈴木敏宏政策企画課課長補佐兼政策推進係長、渡辺苑子政策企画課主任主事、熊谷尚孝政策企画課主任主事

## 5 議 題

- (1) 後期基本計画「主な指標」令和3年度実績の報告について
- (2) ワークショップ「総合計画各分野の課題解決に向けて」

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者の数 0人

8 小岩会長挨拶

本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

本日も前回に引き続き、次期総合計画に向けたワークショップを行います。先に説明をする、後期基本計画「主な指標」令和3年度実績の報告については、会議終了後に書面またはオンラインで質問を受け付けます。

また、ワークショップでは、いちのせき市民活動センターの皆さんにご協力をいただきます。

一関市総合計画は市の最上位計画であるので、鳥の目を持って大きな視点で、さらに

は、虫の目でポイントとなるところを見ながら意見をいただければと思います。

## 9 審議の内容

事務局から資料No.1と資料No.2の説明を行った後、ワークショップを行った。

以下、グループ①～⑤に分かれて行ったワークショップで出た意見を、いちのせき市民活動センターが全体に共有した内容である。

### (1) グループ① 地域資源をみがき生かせる魅力あるまち

様々な分野のニーズや情報を集めて、それをどのように生かしていくかを考える戦略室が必要である。具体的な取組として例に挙げたのが、おもちゃ美術館である。おもちゃ美術館に、市内の農林水産業などの資源を活用しながら、観光分野や雇用分野にも結び付くような、市内全域のプロデュースをしてもらってはどうか。

また、一ノ関駅前に市のアンテナショップを作る案も出た。一関市内には食のブランドがいくつかあるが、一ノ関駅前では食べられないので、アンテナショップを作ることで、観光や雇用にも繋がっていくのではないかと。

これらの取組には、戦略室が必要であり、さらには愛が必要である。一関市には自己満足的な冷たい部分があるという意見があったので、みんなでフォローをしていくという愛のある意識改革が必要である。

### (2) グループ② みんなが交流して地域が賑わう活力あるまち

公共交通、地域情報化、地域づくり活動について優先的に話し合った。まず、公共交通については、一関市版山手線を作るという案が出た。

地域情報化については、SNSを使用した高齢者の安否確認などを普及させるために、ITデジタル支援員を配置し、各地域の拠点を周る取組をしてはどうか。

地域づくりという言葉の定義が難しいので、別の言葉に変えることで、仕事づくりなどに繋がっていくのではないかと。

### (3) グループ③ 自ら輝きながら時代の担い手を応援するまち

8つの分野があるが、それぞれの分野で内容が重なる部分があるので、大きく3つのグループに分けた。1つ目のグループは子育て、義務教育・高等教育等、青少年の健全育成、2つ目のグループが生涯学習、文化芸術、スポーツ、レクリエーション、3つ目のグループが文化財保護、地域文化の伝承、骨寺村荘園遺跡の保護である。

人権や男女共同参画については、福祉との繋がりが強いと思うので、このグループ分けからは外したところである。市には様々な補助金などのメニューがあるが、そろそろ限界がきている気がするので、市民ひとりひとりの主体性を育て、尊重するような取組が必要である。

起業支援を例に挙げると、すべてを市で決めるのではなく、市では大きな受け皿だ

けを作って、詳細は実際に起業を考えている人に、どのような支援が必要なのかを聴き取りながら構築していったほうがよいのではないかと。また、様々な取組を始めるにあたり、アイデアコンテストを開催するという案も出た。

(4) グループ④ 郷土の恵みを未来へ引き継ぐ自然豊かなまち

資源・エネルギー循環型社会の分野では、市で100%循環できるエネルギー社会を目指すのが理想である。このような社会の実現に向かいながら、「住みたいまち」を目指していくべきである。エネルギー生産を考えるにあたっては、生産コストも含めて考える必要がある。

上下水道については、個別の計画であり、総合計画には含めなくてよいのではないかという意見もあった。

(5) グループ⑤ みんなが安心して暮らせる笑顔あふれるまち

現状では市民相談体制が弱く、市役所に相談をしても各課にたらい回しにされることもあるので、「話を聴く課」を新設し、市民からの相談を受け付け、各課に話を繋ぐ体制がほしい。

地域福祉と高齢者福祉、障がい者福祉の3つに分かれているが、これは1つにまとめて福祉として考えたほうがよいのではないかと。独り暮らしの人が孤独死をしないサポート体制、免許を返納しても今までと同じ暮らしができる仕組みづくり、介護現場で働く人を支えるサポートスーツの導入などが今後必要になってくると思う。

(6) 全体のまとめ

本日は優先順位を考えながら、次期総合計画の10年間で一関市が重点的に取り組まなければならないことのイメージをしていただいた。優先順位を考えたことで、総合計画各分野の項目の整理が必要であることが見えてきたところである。

3回目の審議会では、今回議論できなかった部分について、事務局から「このような視点でこの分野を議論してほしい」という提案をもらうこととしたい。

10 担当課 市長公室政策企画課